



沖縄においてアクティブラーニングを支援 ～大東文化大学の沖縄研修支援を実施～



那覇駐屯地講堂における講義の様子



史跡の説明をする所長と聴講する学生



偵察警戒車に乗り興味深く説明を聞く学生

東京地本北地域事務所は、平成29年9月3日から5日までの間、大東文化大学と中京大学の教諭、学生26名が参加する合同の沖縄研修に同行し、自衛隊関係施設の研修を支援した。

大東文化大学と中京大学の沖縄研修は、アクティブラーニングの一環として昨年も実施しており、2、3年生を対象としている。

学生たちは国際情勢及び現在の安全保障環境について学ぶ目的で、沖縄県民への聞き取り調査を行い、合同ゼミにおける発表や討議を行うレポートを作成するもので、今年は東京地本が部隊見学等の計画及び調整を担当した。

研修支援の内容は、那覇駐屯地部隊見学と沖縄本島における史跡研修であり、那覇駐屯地見学において、自衛隊及び那覇駐屯地の概要説明、沖縄戦史の講義、装備品展示、体験搭乗及び体験喫食を行った。特に、沖縄戦史の講義には熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が行われるなど、学生及び教授も満足するものであった。その後、東京地本北地域事務所長が案内役となり、首里城公園内の第32軍司令部跡、嘉数台公園において、展望台から地形を概観し、現地の戦術的価値等を説明した。また、旧日本軍のトーチカ（コンクリート等で構築した拠点）やガマ（塹壕跡）を見学し、説明及び質疑応答を行った。

学生たちは、現在の沖縄県民の生の声を聴き、沖縄戦史を学習して追体験したことを現在の情勢を鑑みてレポートにまとめ、合同ゼミに臨んだ。

研修中、自衛隊の抑止力としての重要性と今後の方向性について熱く語る学生もあり、来年度も合同研修の実施を望む声が目立った。

なお、今回の研修参加を機に3名の学生が自衛隊を志願したことは、所長にとって一番の労いの出来事となった。

東京地本北地域事務所は、今後も積極的に学生の部隊見学を計画して、募集対象者等に自衛隊の重要性や魅力を積極的に伝えていくとしている。

前川原にて陸幹候補採用予定者部隊研修

東京地本は、10月2日（月）、3日（火）の2日間、陸上自衛隊幹部候補生学校（前川原駐屯地）が主催する、「平成29年度陸上自衛隊幹部候補生採用予定者に対する学校研修」に参加した。

本研修は、平成29年度採用予定者に対し、幹部候補生学校の概要を理解させるとともに、入校にあたり少しでも不安の解消を図ることを目的とし、毎年実施している。

今年度の研修は、東京地本44名、東京地本を除く東部方面管内23名の他、北部方面管内7名、東北方管内2名、中部方面管内42名及び西方面管内12名の計130名が参加した。

初日は、幹部候補生学校の剛健大講堂にて、全般説明、体験喫食、学校概況説明及び入校学生との懇談が実施された。入校学生との懇談会では、大学・大学院の別、出身大学等を基準としたグループに分かれて懇談が行われ、入校学生と直接会話することで、入校前の不安・疑問等の解消が図られた。

また、久留米市内で行われた懇親会では、東京地本を含む東部方面管内の採用予定者のほか、福岡・熊本地本からの参加者もあり、各地本の枠を超えた同期の絆の醸成が図られた。

二日目は、学校長講話、校内見学、教育実視及び体験喫食が実施された。学校長（鬼頭健司陸将補）講話では、東日本大震災の災害派遣活動やフィリピン国際緊急援助隊の映像を観た後、学校の沿革及び自衛隊の概要についての説明があり、学校長の経歴を例にキャリアパスについての講話を頂いた。特に、「入校までに期待するもの」として、学校の概要の理解、長距離走や腕立ての練成、縫い物や洗濯、アイロン掛けの練習及びお互いのネットワーク作りを要望された。

また、史料館、居室及び障害コースを見学し、その後、英語と戦術の授業を実施した。

参加した採用予定者からは、「学校生活がいメーリアップできた。」「早く入校したい。」「等の意欲が強く感じられる所感が多かった。

東京地本は、今回研修に参加した採用予定者を含む一般幹部候補生合格者が、来年4月に前川原の幹部候補生学校の門をくぐり、学校の校風である「質実剛健」の精神のもと、元氣ハツラツと活躍することを期待している。



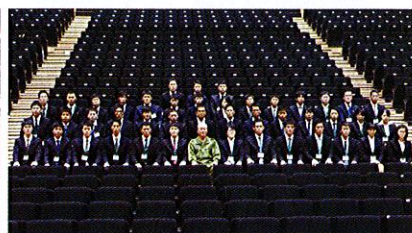
体験喫食



学校長講話



入校学生との懇談会



学校長との記念撮影